

平成28年度 高浜市立吉浜小学校の取組

学校教育 目標	強いからだと美しい心をもった児童を育成する。 ○考える子 ○健康な子 ○素直な子 【目指す子ども像】 「自分の言葉で語ることのできる子」	〈学校の使命〉 自立した大人になるための基盤をつくる。 〈経営展望〉 自信と希望をもって中学校へ進むことができるための学びを保証する教育を追究しつづける学校である。
------------	--	--



教職員(組織)の 姿	① 常に「児童の学びを保証する」ことを念頭に置き、日々の教育活動に取り組む教職員である。 ② 日々研鑽を重ね、お互いに高め合うことができる教職員集団である。 ③ 教育公務員としての自覚をもち、児童に対し率先垂範する教職員である。
---------------	---

経営展望実現に 向けての現状と 今年度の位置づ け	本校の児童は、卒業後、4つの小学校から生徒が集まる高浜中学校へ進学する。その中学校へ自信と希望をもって進むことができる児童を育てるために、昨年度は「相手の思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子」を目指す子ども像として取り組んできた。児童を育む場としては、クラスで学ぶ、行事や各活動で学ぶ、地域で学ぶ、の3つを中心に取り組んできた。しかし、直接的に児童を育てる方策を中心に考え、学校組織としてどう成熟していくかという大きな方向性が見られなかった。そこで、今年度は、自信と希望をもって中学校へ進むことができるための学びを保証する教育を追究しつづける学校であるために、「授業力が向上する主題研究体制の構築」、「目標管理による学年・学級経営の展開」、「児童の主体的な活動を育む支援体制の強化」、「地域の方々とともに地域愛を育む教育活動の構築」を4つを学校経営の柱とし、PDCAサイクルを回して高まっていける学校の体制をつくっていく。
------------------------------------	--



経営 方針 と その 考 え 方	① 授業力が向上する主題研究体制の構築 自信と希望をもって中学校に進むために、児童同士がかかわり合う中で、相手の考えを受け止め、自分の考えを自分の言葉で語ることのできる学びを保証する教育を追究することが重要なことと考える。このために、学校生活の大半を占める授業について、主題研究推進委員会を中心として研究を進め、教職員の授業力を向上させることが、経営展望実現に向けての第1の柱となる。 ・年3回の全体授業研究が3回を通して向上していくように、PDCAサイクルを回して主題研究をマネジメントする。 ・「教職員の自己評価3段階」およびその結果を、主題研究マネジメントと各教職員の授業改善活動に活用する。 ・朝の読書、聴き方・話し方の指導を継続的に行い、主題研究でめざす授業の基礎づくりをする。
	② 目標管理による学年・学級経営の展開 授業と学級経営は切り離せないものであり、安定した学級経営があつてこそ授業の質を高めることができ、また、授業での学びの高まりが学級を成熟させていく。6年間の児童の成長を見据えて、各学年末での児童のあるべき姿を目指し、児童の成長をつなげていくことができる学年・学級経営を保証することが、経営展望の実現に向けての第2の柱となる。 ・安定して授業の質を高められる学級に育てていくための学級経営上の教員自身の課題と目標を明確にし、PDCAサイクルで学年・学級経営を進めていく。 ・スピーチタイムや授業での話し合い活動を、安定して授業の質を高められる学級づくりの柱として位置づける。
	③ 児童の主体的な活動を育む支援体制の強化 自信と希望をもって中学校に進むためには、自分で自分を育てるという主体的な態度を身に付けられる学びを保証する必要がある。この学びを保証する教育を追究するために、学校行事や児童活動への支援体制を強化していくことが第3の柱になる。 ・児童が自分たちで考えて実行し、自分たちの活動を振り返って次の活動につなげていくことができるような学校行事・児童活動・学級活動を位置づけていく。 ・自分の言葉で語る力を養うことができるような、異学年交流や異校種交流を行う。
	④ 地域の人々とともに地域愛を育む教育活動の構築 地域の一員として自立した大人になるために、地域を愛し、地域に貢献しようとする心が育つ学びを保証することが必要である。この学びを保証する教育を追究するために、地域行事や伝統文化が多い吉浜地区の強みを生かし、地域の方々とともに児童を育ていく教育体制を整えることが第4の柱となる。 ・地域の方へ感謝する気持ちや地域に貢献しようとする気持ちを育むことができる活動を、地域の方との意思の疎通を図り、教育課程に位置づけていく。 ・学校だより・学年だより・ブログなどで、学校から保護者や地域に積極的に情報発信するとともに、地域、保護者の意見を学校運営に生かし、協働して学校づくりをする。

経営方針	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標			取組指標 概ね8割以上の達成でA 6割以上の達成でB それ以下はC
① 授業力が向上する主題研究体制の構築	児童がかかわり合いながら話し合い、自分の考えを深めていく授業ができている。	児童が自分の考えをもち、他の児童の考えを受け入れながら、自分の考えを自分の言葉で語ることができる授業ができている。	・ 全体授業研究を3回行い、主体的・協働的な学びができる授業のあり方を研究し、各学級で実践する。 【講師料 全体研究授業 3万円×3】	全体研究のマネジメント	3	3回の全体授業をPDCAサイクルで回し、前回の反省点を次の全体授業に生かしている。	・ 学年に応じて、授業の中で自分の考えを深めることができている児童が増えている。 （活動の様子・教員による分析）
					2	主題研の目標に合わせて、全体授業を3回行っている。	
					1	全体授業を3回行うことができていない。	
			・ 「教職員の自己評価3段階」を念頭に置き、自分の指導を振り返りながら、次の段階を目指して授業を進める。	自己評価3段階の活用	3	自己評価3段階を主題研究と関わらせ、組織的に活用している。	・ 8割以上の教職員が、中堅以上のレベルに達している。 （教員自己評価）
					2	個々の教師の指導力アップに生かしている。	
					1	評価だけして、指導力アップに生かされていない。	
			・ 朝の読書を継続して進め、児童の視野を広げ、考えを深めさせる。 ・ 「聴き方名人」、「話し方名人」の表を教室の前面に掲示し、常に聴き方、話し方の「あいいうえお」を児童に意識させて授業に臨む。	くり 主題研究で目指す授業の基礎づくり	3	朝の読書や聴き方・話し方について継続的な指導がなされ、主題研究の目標達成に結びついている。	・ 発達段階に応じた本を読み、自分の考えをもつ基礎づくりになっている。 （活動の様子・児童アンケート）
					2	朝の読書や聴き方・話し方の指導はされているが、主題研究と結びついていない。	
					1	朝の読書、聴き方・話し方の指導が、継続的にされていない。	
			・ 授業力・学級経営力を高めるために、自己評価シートに具体的な目標を設定し、実践する。	経営方針に則した自己評価シート	3	2つの目標区分とも、本年度の経営方針に準じた内容になっている。	・ 学校の重点目標を踏まえ、自己評価シートに具体的な目標を立てて実践し、達成基準を上回っている。 （自己評価シート）
					2	1つの目標区分が、経営方針に準じた内容になっている。	
					1	経営方針に準じた内容になっていない。	
② 目標管理による学年・学級経営の展開	児童の6年間の成長の中で今の学年の位置を考え、卒業時の姿を見据えた学級経営ができている。	学年末の児童のあるべき姿を目標として、次の学年に繋がる学級経営ができている。	・ 学級の現状をとらえながら、常に課題と目標を明確にし、自己向上力のあるクラスにするためのシステムを作り、学級経営を進める。	級経営 PDCAサイクルで回す学級経営	3	目標管理による半期ごとのPDCAサイクルで学級経営を進めている。	・ 担任の思いが児童に伝わり、学級目標を意識しながら、自己向上力のある学級の姿になっている。 （教員自己評価・児童アンケート）
					2	目標は定めているが、前期の反省を後期の経営に生かしていない。	
					1	目標管理による学級経営ができていない。	
			・ 朝の会でのスピーチや授業での話し合いを学級づくりの柱とし、級友の思いを受け止め、自分の思いを自分の言葉で語ることができる学級づくりをする。	スピーチや話し合い活動を柱とした学級づくり	3	スピーチ活動や話し合い活動が、安心して話し合える学級づくりに生かされている。	・ 自分が思ったことを抵抗なく話すことができ、また、聞き手も話し手の考えを理解しようとしている。 （活動の様子・児童アンケート）
					2	スピーチ活動や話し合い活動は行っているが、学級の人間関係づくりに生かされていない。	
					1	スピーチ活動や話し合い活動があまり行われていない。	

③ 児童の主体的な活動を育む支援体制の強化	各行事・各活動が、児童自ら推進していることを実感できるものになっている。	児童計画委員会、学年行事、委員会活動などが、児童が自分たちで反省を行いながら次の活動になげる主体的な活動になっている。	・ 児童会行事、学年行事、委員会活動などにおいて、児童の考えで企画・運営し、前の活動を自分たちで振り返りながら次の活動につなげていく。	児童活動 児童が主体的に動く行事や交流活動 思いを受け止め、思いを伝える	3 児童が自分たちの活動を振り返って次の活動につなげている。 2 自分たちの考えで活動を進めているが、次の活動へのつながりがない。 1 教師主導の活動になっている。	・ 児童の考えが行事や活動に生かされ、やり遂げた満足感と次の活動への自信をもつことができている。 (活動の様子・児童アンケート)
		異学年交流や幼稚園保育園・中学校・地域との交流が、発表の仕方や聞き方を学び、相手の思いを受け止めながら、自分の考えや思いを自分の言葉で伝えられる活動になっている。	・ 生活科や総合的な学習の時間などで、異学年や幼稚園保育園・中学校・地域との交流を設定し、意見発表、活動発表の力を養う。 【教育基本構想推進事業委託料 10万円】		3 異学年交流や異校種交流が、相手の思いを考えながら自分の思いを自分の言葉で伝える場となっている。 2 交流が自分の言葉で伝えるだけの場になっている。 1 異学年交流や異校種間交流があまり行われていない。	
④ 地域の人々とともに地域愛を育む教育活動の構築	地域の人々に感謝し、地域のために働くことができる児童を育てる活動が、学校と地域が協働して行っている。	ふるさとに愛着をもち、地域の方々に感謝する心をもつ児童を、学校と地域が協働して育てている。	・ 生活科の野菜作りや町探検、菊の一人一鉢栽培や菊人形作りなどで、地域の方と学校が意思の疎通を図り、活動に意義を明確にして取り組む。 【菊作り用土、肥料等1万円】	地域と学校の協働による授業づくり	3 地域の方と学校が協働して児童を育むことができる活動を教育課程に位置づけている。 2 地域の方との活動は行われているが、地域または学校の一方的な考えで行われている。 1 地域の方との活動があまり行われていない。	・ 教職員や友達だけでなく、来客や地域の人にも、丁寧な挨拶や対応ができている。 (活動の様子・児童アンケート) ・ 各学年での体験活動や地域行事への参加を通して、地域のことを理解し、地域の方々に感謝する心をもつ児童が育っている。 (活動の様子・児童アンケート)
		地域ぐるみで心豊かな児童を育てるために、学校だより、学年だより、学校からの情報発信に努めるとともに、地域、保護者の意見を学校運営に生かしている。	・ 各種たよりやブログを定期的に発行する。また、PTA新聞を地区に回覧することで、保護者や地域の人に、学校の様子を知らせる。 ・ PTA理事会、学校関係者評価委員会、保護者アンケートなどで、学校に対する意見を収集する。 ・ 防災・防犯に関する学校の取り組みに対し、まち協や町内会の協力が得られるよう計画する。		3 保護者、地域の方に学校の情報を発信し、また保護者、地域の意見を学校運営に生かしている。 2 情報は発信しているが、保護者、地域の意見を学校運営に生かしていない。 1 学校の情報を、十分に発信していない。	